



2. 専門用語の定義（意味）の明示：美術教育を専門とする関係者の学会であっても、筆者の意図する専門用語の意味を皆が共有しているとは限らない。簡単な説明もしくは例を示す必要がある。美術教育関係以外の人に読んでもらい意味が把握できるかどうか確認するのも良いかと思う。

3. ネイティブ（英語を母国語とする人）に内容確認：文法が正しいからといって生きた文章であるとは限らない。その文章が英語として通じるかどうかの確認は必須。

最後に大学の美術教育学部の中、もしくは大学院レベルにおいて、英文でプロポーザルを書かせるのを課題として訓練する必要性を感じる。将来を担う学生達にも今後グローバルな視点から日本の美術教育を外にも発信していただきたいと思う。